述

五年

画数 8
筆順 十 ホ ボ 述
オン ジュツ
クン のべる

成り立ち

〝ジュツ〟という発音を表した〝ボ〟と、「道を進んで行く」ことを表す〝辶〟とを組み合わせて作った字です。

〝ボ〟は、この字の発音を示すための字であって、意味には関係ありません。それで、〝述〟は、「道を進んで行く」という意味で「物事がうまく〝進行する〟」ということを表したものです。

今では、「思っていることをうまく説明する」という意味に使います。〝のべる〟ことです。

使い方

▽先生は、しみじみと、「若い頃、もっと思い切り、何でもやっておけば良かったと思うよ。年を取ってからでは、もう何をする意欲も湧かない。ふり返ると後悔することばかりだね」と、述懐されました。ぼくは、何だか悲しくなってしまいました。

▽この本には、日本の歴史が要領良く叙述されていて、大変おもしろいから、一度読んでごらんになったらいかがですか。

熟語例

▽述懐（思っていることを述べること。）

▽叙述（順序良く述べたり書いたりすること。また、その述べたり書いたりした内容）

▽記述（文字に記して述べること。「この記述には、一か所誤りがあるから、探してごらんなさい」などというふうに、つかいます。）

▽論述（意見を筋道立てて述べること。「日本とアメリカの経済問題について論述する」などというふうに、つかいます。）

▽著述（本を書き著すこと。また、その書き著した内容）

術

五年

画数 11
筆順 彳 行 𢧵 𢧵 術
オン ジュツ
クン

成り立ち

〝十字路〟の形を表した〝行〟と、この〝ことば〟の発音である〝ジュツ〟という音の〝ボ〟とを組み合わせて作った字です。

〝ボ〟は〝おけら（うけら）〟という草の形を表した字ですが、ここではただ〝ジュツ〟という音を表す印として使われています。それで、術は〝道〟と同じ意味の字として使われています。

道は、人がどこへ行くのにも必要なものですから、何をするのにも必要な〝方法〟とか、〝わざ〟の意味に使われるようになりました。

使い方

▽昔の本には、忍術使いの話がよく出て来ます。すがたをけしたり、高い所をとびこえたり、ぼくも忍術が使えたらなあ、と思います。

▽剣道も柔道も、昔は、剣術、柔術と言いました。術は道なのに、単に〝わざ〟の意味になってしまったので、道という字に改めたのだと思います。

熟語例

▽忍術（忍びのわざ。身をかくして忍びこむわざという意味の言葉です。）

▽剣術（剣を使って戦うわざ。剣の術。今は〝剣道〟と言います。）

▽柔術（武器を使わないで戦うわざなので〝柔〟と言います。今は〝柔道〟と言います。）

▽技術（わざ。機械などをうまく使いこなすわざのことを言います。）

▽芸術（音楽、絵画、彫刻、文学、演劇などの、美を創造するわざのこと。）

▽芸術家（芸術作品を創作することを仕事にしている人。美を表現することを仕事にしている人）